

## 日本応用地質学会東北支部 平成 20 年度研究発表会開催の報告

2008 年 7 月 18 日 代表幹事 高見智之

今年の研究発表会は、岩手・宮城内陸地震の約一ヶ月後という時期に開催されました。災害対応など、支部会員は非常な繁忙期の中での多数の参加をいただきました。本年は、研究発表会の構成を急遽変更して、午前是一般発表、午後を地震関連の発表と地震関連の総合討論としました。

一般発表は、モルタル吹き付け法面や落石監視システムなど道路防災に関する発表が 2 編、切土の地下水影響の解析や井戸の適正揚水量決定法など地下水に関する発表が 2 編、トンネル工事に伴う重金属含有土砂対策が 1 編ありました。

特別講演は、東北大学総合学術博物館の永広昌之館長による「南部北上古陸の形成とその発展—南部北上帯の地質構造発達史—」と題して講演をいただきました。なお、9 月の支部現地見学会は、先生の案内により北上山地南部付近を予定しています。



特別講演をする永広館長

午後の地震に関連して 4 編の発表がありました。地表地震断層に関するものや斜面災害に関するもの、大規模地すべりと地質、鬼首寒湯の再陥没に関して発表がありました。

総合討論は平成 20 年岩手・宮城内陸地震に関する総合討論とし、急遽話題提供として、東北農政局の森一司氏による「荒砥沢ダムの地質と地震後の安定性について」、東北電力の橋本修一氏による「地表地震断層のトレースと構築物被害」(代読) の 2 編の報告をいただきました。その後の討論で、荒砥沢ダム付近の地質層序や構造、強震動について議論が盛り上がりました。



森氏による話題提供

また、地表地震断層と発表されている地表変状について斜面変動との関連性や地質構造からの意見が交わされました。今回の地震災害で、斜面災害の特徴と地質の関連性や、地表地震断層と斜面変動の関係、活断層調査と地震予知、地震による斜面災害危険度評価、ダムなどの構造物と内陸地震など、多くの課題が明らかになりました。

これらを解明するには応用地質学的な観点が不可欠であり、当学会の役割を再度認識するに至りました。そして、日本応用地質学会東北支部では、災害の緊急復旧が一段落する9月以降に災害調査団を編成して、災害の実態の解明と今後の防災計画に資する活動を進めることで賛同を得ました。今後とも会員の協力を得まして当学会としての地震災害研究を進めて行きたいと思えます。

以 上